

# 夏のトンボ調査会

2022年8月14日(日)

例年一般の参加者を募集して『トンボ観察会』を実施していますが、今年には新型コロナ感染拡大防止のため、会員による調査のみ行いました。

講師

互井 賢二氏 房総蜻蛉研究所(行徳トンボ研究室)



調査会の参加者は14名でした。台風一過の薄曇りの中、調査を行いました。



捕獲したトンボを皆で観察しました。



## じゅん菜池管理地内 調査結果

シオカラトンボ	10♂(最大体長5.6cm-最小体長5.1cm)
オオシオカラトンボ	4♂(最大体長5.7cm-最小体長4.9cm)
ショウジョウトンボ	11♂(最大体長5.0cm-最小体長4.2cm)
アジアイトトンボ	2♂(最大体長2.8cm-最小体長2.7cm)
ギンヤンマ	2♂、1♀(1交尾) = 目視
チョウトンボ	1ex = 目視

シオカラトンボとオオシオカラトンボの違いを教えてくださいました。



シオカラトンボは、腹部が急に細くなります。複眼がシオカラトンボは青っぽく、オオシオカラトンボは黒っぽかったです。



どうして、オスばかり捕獲されるのでしょうか？



ヤンマ系の探雌(たんし)飛翔について解説して頂きました。  
メスは池ではなくて、周辺の草むらにいたのですね。交尾の準備ができたメスが池にきていたようです。



最後に、セミの大合唱の中、5種類のセミの抜け殻の観察も行いました。

